

答辞

緑豊かな武蔵大学のキャンパスも春の彩りへ変わる季節となりました。本日は、教職員の皆様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席のもと、このような素晴らしい式典を挙げていただき、卒業生一同厚く御礼申し上げます。

振り返ると、大学で過ごした4年間は瞬間に過ぎて行きました。新型コロナウイルスが猛威をふるう中私たちの学生生活は始まり、パソコンに向き合う日々が続きました。今まであたりまえだと思っていた、学友や先生方と同じ空間で学ぶという日常がいかに尊いものであったかということを考えさせられました。入学した当初はオンライン授業に戸惑うこともありましたが、学友と助け合いながら学ぶことができた実感しております。

経済学部の特徴である学科を超えた少人数制ゼミナールを通して、「仮説を立て検証する」という主体的に学ぶ姿勢が身につきました。2年次からは他学年の学生とともに学ぶ縦ゼミナールで仲間と研究を進めるための協調性も磨かれました。そして、他大学との合同ゼミナール大会は、ユニークな研究テーマや発表に対する多角的な視点からのフィードバックにより、新たな課題を発見する機会にもなりました。

大学生活で得た知識や経験、仲間との繋がりは将来の糧になると確信しています。4月から私たちはそれぞれの道を歩むこととなりますが、社会に大きく貢献できる人間になることを目指して、卒業生一同今後とも精進してまいります。

最後になりますが、これまで親身にご指導くださいました教職員の皆様、暖かく見守り惜しみない支援をしてくれた家族の支えがあって、本日、卒業の日を迎えることができました。卒業生を代表して、私たちが支え、導いてくださった全ての方に心より御礼申し上げます。皆様のご健康と武蔵大学のさらなる発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

令和6年3月22日

武蔵大学 第72回卒業生代表

経済学部経済学科 片渕咲子